

事務事業 No./名 称	■サービス部門 景観-11 樹林維持管理事業 □支援部門									
主管課	公園海浜課				関連課	みどり課・都市景観課				
分野名	みどり									
目標 (目標値)	樹林を適正に管理することにより、緑豊かな都市づくりを目指す。									
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考					
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯						
	事業の対象者数									
運営資源 状 況	決算値(千円)	15,649	15,971	14,998						
	(国・県)									
	(負担金等)									
	(一般財源)	15,649	15,971	14,998						
	人員配置数	0.7	1.2	1.2						
	人 件 費(千円)	5,961	10,843	11,280						
	協 働 の パートナー									
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	21,610	26,814	26,278						
	市民1人当 りの経費(円)	122	152	149						
	対象者1人 当りの経費(円)									
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名									
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)			
		目標値								
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値								

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。				②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。				
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。				④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。				
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止				
樹林維持管理事業	15,649千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒	■A □B □C □D □E
	事業の概要	古都保存法等の指定を受けている山林の所有者の管理に対する負担の軽減を図る。									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要										
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要										
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要										
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要										

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	申請により事業を実施しているため、申請件数によっては、全てに対応できない場合が起こりうる。				
課題解決のための取組	できるかぎり申請者と現地で立会い、優先順位を付けて要望を受け実施した。また、入札差金を活用し、きめ細かい対応を心がけた。				
未解決の課題	通知が宛て先不明で返送されるものがあり、実施できない場所がある。				
今後の方針	土地所有者から問い合わせがあれば、登記を適正に行うよう助言する。				
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了	課長名 公園海浜課課長代理 石山 由夫

個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
樹林維持管理事業	776	樹林維持管理事業	16,000	15,649	■適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり
	主な個別事業				□適切 □見直し余地あり